

日本ヒューマンリレーション研究学会 第6回全国大会

大会テーマ
SNSとヒューマンリレーション

開催日 2026年2月23日(月・祝)

大会長 新美 貴英 (安田女子大学)
開催場所 安田女子大学

ご挨拶

日本ヒューマンリレーション研究学会第6回全国大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。多様な専門分野から多くの皆さまに広島へお集まりいただけたことを、実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。

本大会のテーマは「SNSとヒューマンリレーション」です。

私たちの社会は、SNSの普及によって、これまでにない速度と規模で人と人がつながる時代を迎えるました。かつてはテレビや新聞、ラジオといったマス・メディアが情報発信をほぼ独占していましたが、いまや個人の発信が社会的影響力を持ち、コミュニティの形成や維持のあり方も大きく変わりつつあります。一方で、誤情報の拡散や分断の助長、孤立感の増幅など、デジタル環境がもたらす課題も顕在化しています。こうした光と影が交錯する状況の中で、あらためて「人間関係とは何か」「つながりはどうのように育まれるのか」を問い合わせることは、私たち研究者にとって重要な使命であると考えます。

その議論の場として広島を選んだことには、深い意味があります。広島は、過去の惨禍を乗り越え、平和のメッセージを世界へ発信し続けてきた都市です。記憶を共有し、対話を重ねることの大切さを象徴している都市といえます。SNSが情報を瞬時に広げる時代だからこそ、広島が持つ「伝えること」「つながること」の重みは、私たちの研究テーマと強く響き合うものがあります。

本日の議論や交流が、SNS時代のヒューマンリレーションをより深く理解し、より良い社会的つながりを築くための新たな視点を生み出す契機となることを願っています。参加者の皆さま同士の対話が、学問領域を越えた新たな協働や研究へとつながりましたら幸いです。

最後になりますが、本学会の開催にあたりご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。どうぞ充実した一日をお過ごしください。

大会長
安田女子大学 新美 貴英

日本ヒューマンリレーション研究学会 第6回全国大会

開催日:2026年2月23日(月・祝)

開催場所:安田女子大学

大会長:新美 貴英

<大会参加費>

- ①一般会員(6,000円) ②一般非会員(6,500円) ③学生会員(3,000円)
- ④学生非会員(3,500円) ⑤発表者は要旨集掲載費(2,000円)

全国大会を開催するにあたり、以下の事項へのご配慮をお願いいたします。

ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

1 健康状態確認の徹底

発熱等の風邪の症状がある場合は、大会に出席しないようお願いします。

2 マスクの着用について

マスクの着用は任意です。ご自身の判断で着用をお願いいたします。

3 手指消毒液の配置

会場には手指消毒液を置いております。

4 換気の徹底

大会開催中は、外気を取り入れ、換気を徹底します。

5 その他

当日、体調のすぐれない方はご無理をされないようお願いします。

日本ヒューマンリレーション研究学会 第6回全国大会

プログラム

会場: 安田女子大学

9時00分:

受付開始

9時30分:

開会 学会理事長挨拶・大会長挨拶

9時40分～10時45分

【基調講演】

演題: 生成 AI 時代の研究と学際知の拡張 ——私自身の体験から考える研究の近未来—

講演者: 松本 武洋 (関東学院大学教授)

11時00分～12時00分

【公開シンポジウム】

演題: SNSとヒューマンリレーション

シンポジスト: 山崎 将文 (京都橘大学教授)

澤田 光 (安田女子大学准教授)

中塚 晶博 (岐阜聖徳学園大学教授)

新美 貴英 (安田女子大学講師)

指定討論者: 山本 克司 (安田女子大学教授)

12時00分～13時00分

昼食

13時00分～15時00分

【研究発表】

1. 「高齢者の運転免許返納に関する一考察 ~高齢者は免許を返納すべきか?」

発表者 : 村岡 潔 (岡山商科大学法学部・京都府立医科大学医学生命倫理学)

司会 : 調整中

2. 調整中

3. 調整中

15時00分

閉会

【基調講演】

演題：生成 AI 時代の研究と学際知の拡張 ——私自身の体験から考える研究の近未来——

講演者：松本 武洋（関東学院大学教授）

【プロフィール】

金融機関、経済出版社勤務を経て、埼玉県和光市議会議員(2期6年)、同市長(3期)。現、関東学院大学経済学部経済学科教授。市政においては、官民連携や地域包括ケア、財政健全化などに取り組むとともに、全国市長会で子ども子育て検討会議座長を務めた。公会計、行財政改革、議会改革などを研究している。

【講演概要】

GPT-5 世代以降、生成 AI の急速な進化によって研究実践がどのように変わりつつあるのかを、講演者自身の具体的な研究体験をもとに報告する。講演者は長年、公会計への企業会計方式(複式簿記)の適用に強い違和感を抱きながらも、その構造的問題を論理的に表現する手段を持ち得なかつた。しかし生成 AI との対話を通じて、2025 年 11 月に抽象代数学の群論を用いて複式簿記の仕訳・試算表構造を分析した海外の数学論文の存在を知り、その理解を AI の補助と YouTuber の数学動画によって進めることができた。この経験を契機として研究が急速に進展し、2025 年 12 月には群論を用いた公会計研究を学会発表するに至った。従来であれば発見や理解に長期間を要した知的作業が、生成 AI の援用によって大幅に短縮され、研究の進め方そのものが質的に変化したことを実感している。この変化はすでに英語圏の特に工学系の研究コミュニティでは顕著であり、変化そのものも分析対象になっている。本講演は、生成 AI を単なる効率化ツールとしてではなく、学際研究の可能性を拡張する環境変化として捉え直す試みの報告である。特に、従来は分野横断的な知的探究に高い障壁が存在していた研究領域において、生成 AI が新たな挑戦を可能にしつつある現状を共有するとともに、参加者の実践もお聞かせいただくことで、AI 時代における研究実践を会場全体で再考する契機とすることを目的とする。

【公開シンポジウム】

演題：SNSとヒューマンリレーション

シンポジスト： 山崎 将文（京都橘大学 教授）
澤田 光（安田女子大学 准教授）
中塚 晶博（岐阜聖徳学園大学 教授）
新美 貴英（安田女子大学 講師）

指定討論者： 山本 克司（安田女子大学 教授）

【概要】

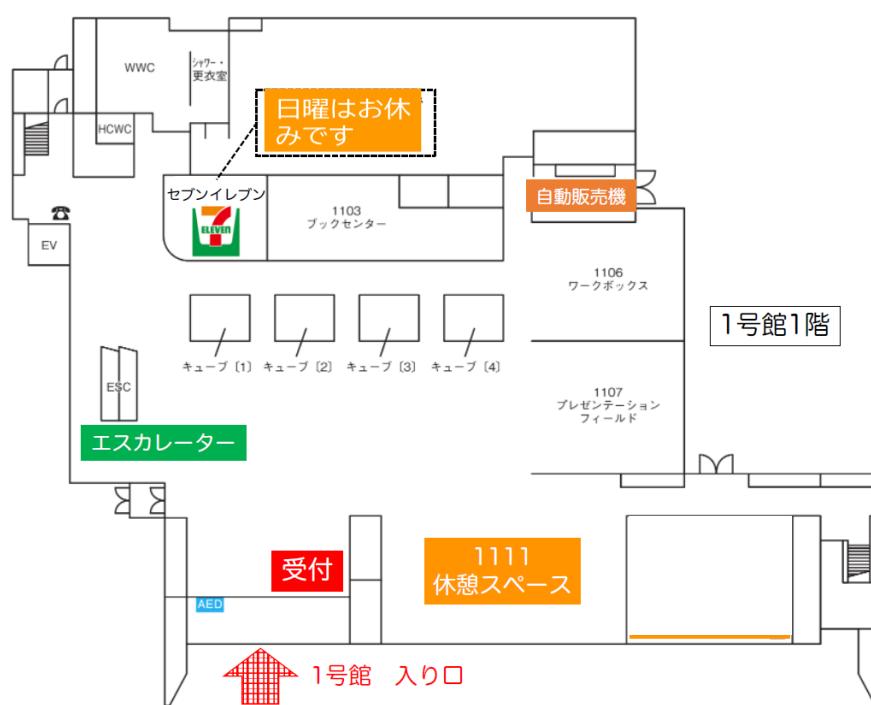
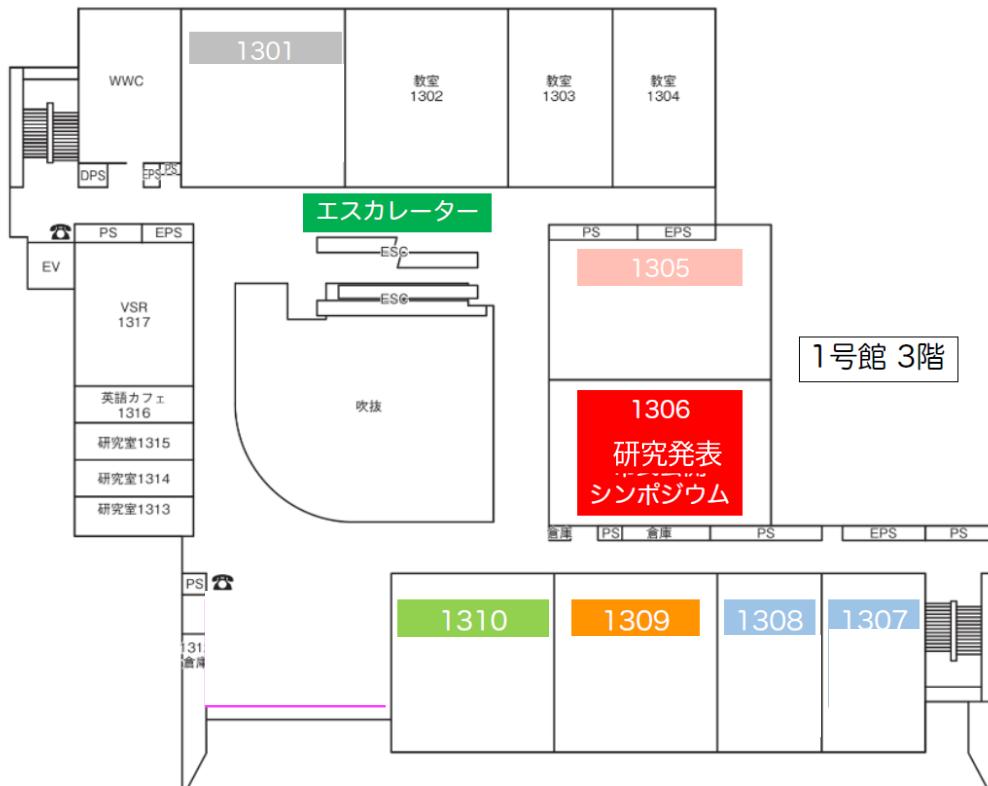
SNS(Social Networking Service)は、現代社会におけるヒューマンリレーションを大きく変容させています。かつて人間関係は、対面での交流を中心に形成・維持されてきました。その後、新聞やラジオ、テレビといったマス・メディアが社会の主要な情報基盤となり、コミュニケーションは一方向的な伝達を軸とする形へと広がりました。しかし近年、SNS の普及により、こうした構造は大きく揺らいでいます。SNS は日常生活のあらゆる場面に浸透し、個人が情報の受け手であると同時に発信者にもなるという双方向的な関係性を生み出しています。

この変化の速度は極めて速く、家族、友人、地域社会、さらには政治や福祉の現場に至るまで、オンライン上のコミュニケーションが果たす役割は拡大し続けています。SNS の普及は人々に利便性をもたらしていますが、一方で、孤立感の増幅、誤情報の拡散、誹謗中傷やネットリンチの深刻化、分断と対立の先鋭化など、デジタル社会特有の課題も浮かび上がっています。

本シンポジウムでは、こうした「SNS とヒューマンリレーション」をめぐる光と影を、多様な学問領域から立体的に捉え直します。登壇するのは、憲法学、社会学、政治学、医療・福祉、人権研究といった幅広い分野で活躍する研究者の方々です。法制度や社会構造の視点、政治参加やコミュニティ形成の視点、さらには医療・福祉の現場での実践知など、さまざまな学問分野の知見が交差することで、SNS がもたらすヒューマンリレーションの変容を、多角的に読み解いていきます。個々の立場や経験から語られる知見は、SNS 時代を生きる私たちに新たな視点をもたらしてくれるはずです。

デジタル化が進む社会で、人と人はどのようにつながり、支え合い、共に生きていくのか。その未来像を探るための対話・考察の場として、本シンポジウムにぜひご参加ください。

施設案内



日本ヒューマンリレーション研究学会 第6回全国大会

大会実行委員

大 会 長： 新美 貴英(安田女子大学)

実行委員： 山本克司、杉山雅宏、松本あかり、小野さやか、澤田光

運 営： 日本ヒューマンリレーション研究学会理事会事務局

会 場： 安田女子大学